

『自分で肉を獲る』を読んで

この本の筆者さんは自分でイノシシなどの肉を獲っています。

本を読んでみて、自分もやってみたいかも...と思ったのですが、

何年も狩りをやっていて、山の微妙な違いにすら気が付ける方でも怖いと思うのなら、

恐がりな私ではもっと無理かなと思いました。

私は動物が死ぬのを見るのは辛いと思っていましたが、筆者さんは

「知恵を絞って自分の力で獲ってこられたことは、自分も動物であることを

実感できた瞬間だった」と書かれていました。

獲物が嫌いだから、動物が嫌いだから、という理由で殺したりしているわけではなく、

本当は動物のことをとても大切にしている、尊重しているのではないかと思いました。

やっぱり私も一回は狩りを経験してみたいです。 ななえ

『自分の力で肉を獲る』 を読んで

今、人間が狩りをするといえは鉄砲だと思っていたので、

わなで手間ひまかけながら

猟師さんが真剣に狩りをしているのは良いことだと思った。

僕も大人になったら狩りをしてみたいかもしれないと興味を持った。

だいと

A watercolor illustration of a path leading through a garden. The path is formed by a series of small, light green leaves and flowers. On either side of the path are larger, more detailed watercolor flowers in shades of yellow, green, and blue. The overall style is soft and artistic.

『恐竜ガールと情熱博士と』を読んで

東さんは、なぜ発掘にそんなに熱心になるのかと思った。

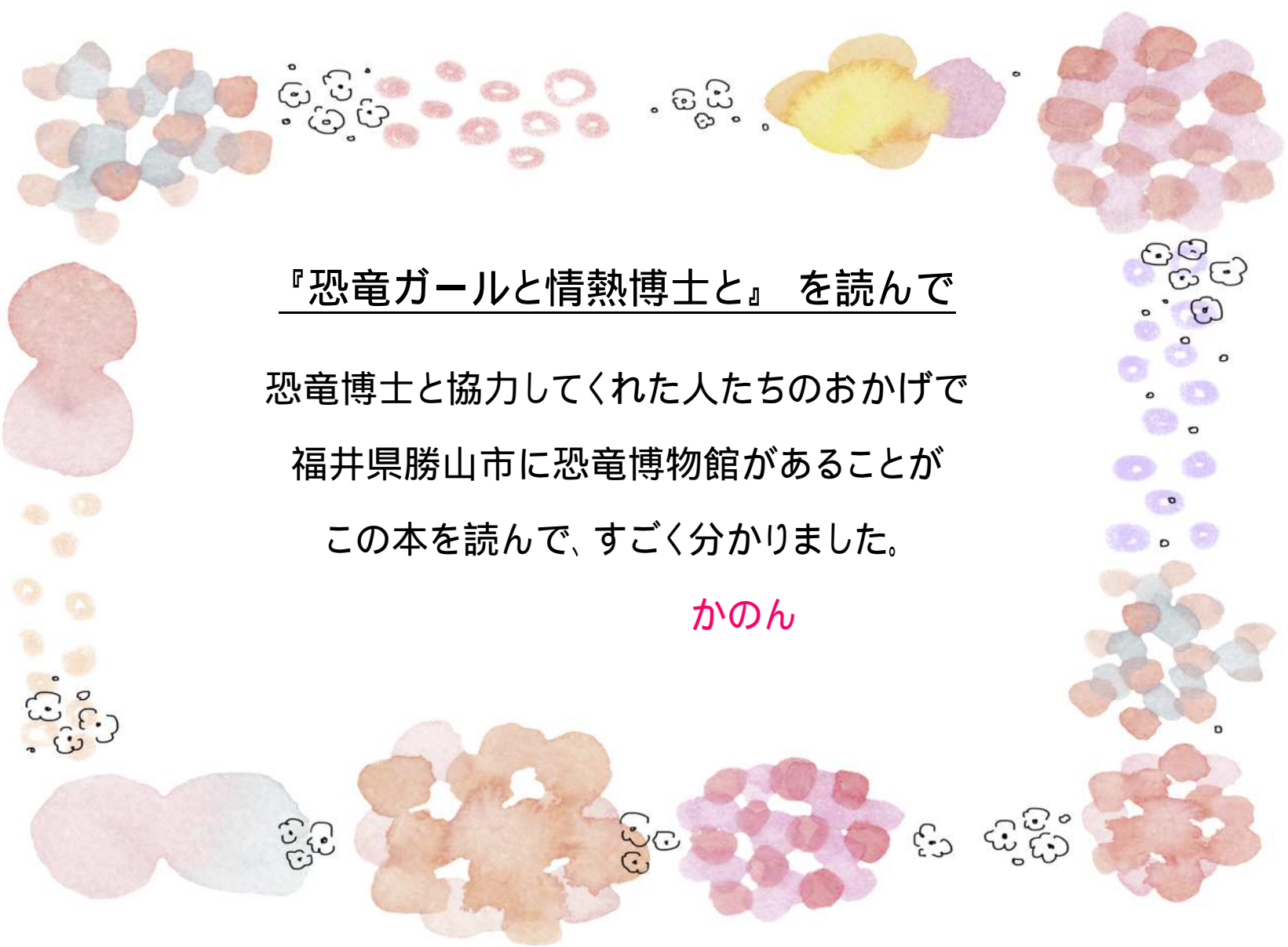
でも、「ここ勝山には、まだまだ恐竜が眠っています。

・・・世界レベルの恐竜研究に貢献できる、

福井県の誇りとなる夢の場所なのです！」

という文を読んで、ぎもんが解けた。

ともか



『恐竜ガールと情熱博士と』を読んで

恐竜博士と協力してくれた人たちのおかげで

福井県勝山市に恐竜博物館があることが

この本を読んで、すごく分かりました。

かのん

## 『恐竜ガールと情熱博士と』を読んで

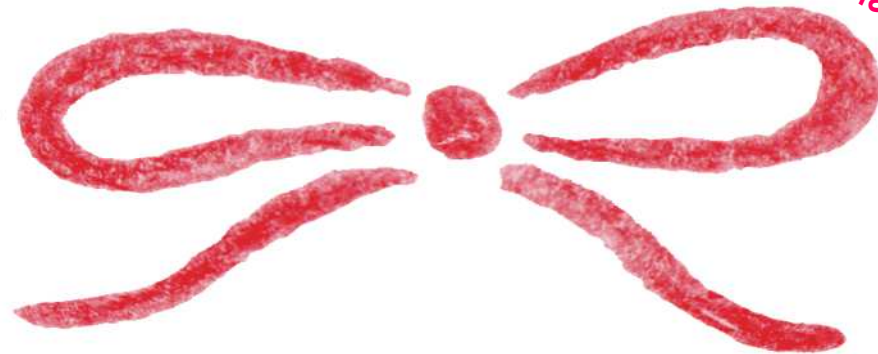
私は松田亜規さんが肉食恐竜の歯を見つけたことが、とてもすごいと思いました。

また、亜規さんが化石を見つけたから、県立恐竜博物館ができる第一歩になったんだと思います。私は今まで、なぜ福井県の勝山市に恐竜博物館があるのか全然知りませんでした。でも、この話(本当にあった実話)を読んで、納得するようになり分りました。福井県に恐竜がいたとは知らなかったし、いないと思っていました。でも、福井県に何頭もの恐竜がいたことを知ってびっくりし、すごいと思いました。

私は一度も化石を見つけたことがなく、見たこともありません。

でも、この話を読んで、少し興味を持ちました。本当にすごいと思いました。

なつき





『恐竜ガールと情熱博士と』 を読んで

亜規さんが拾った石が、恐竜の化石だったのでびっくりしました。

それから、どんどん恐竜の化石を見つけて、すごいと思いました。

恐竜博物館を作ってすごいと思いました。

これからも新しい化石を見つけてほしいと思いました。

さき(や)

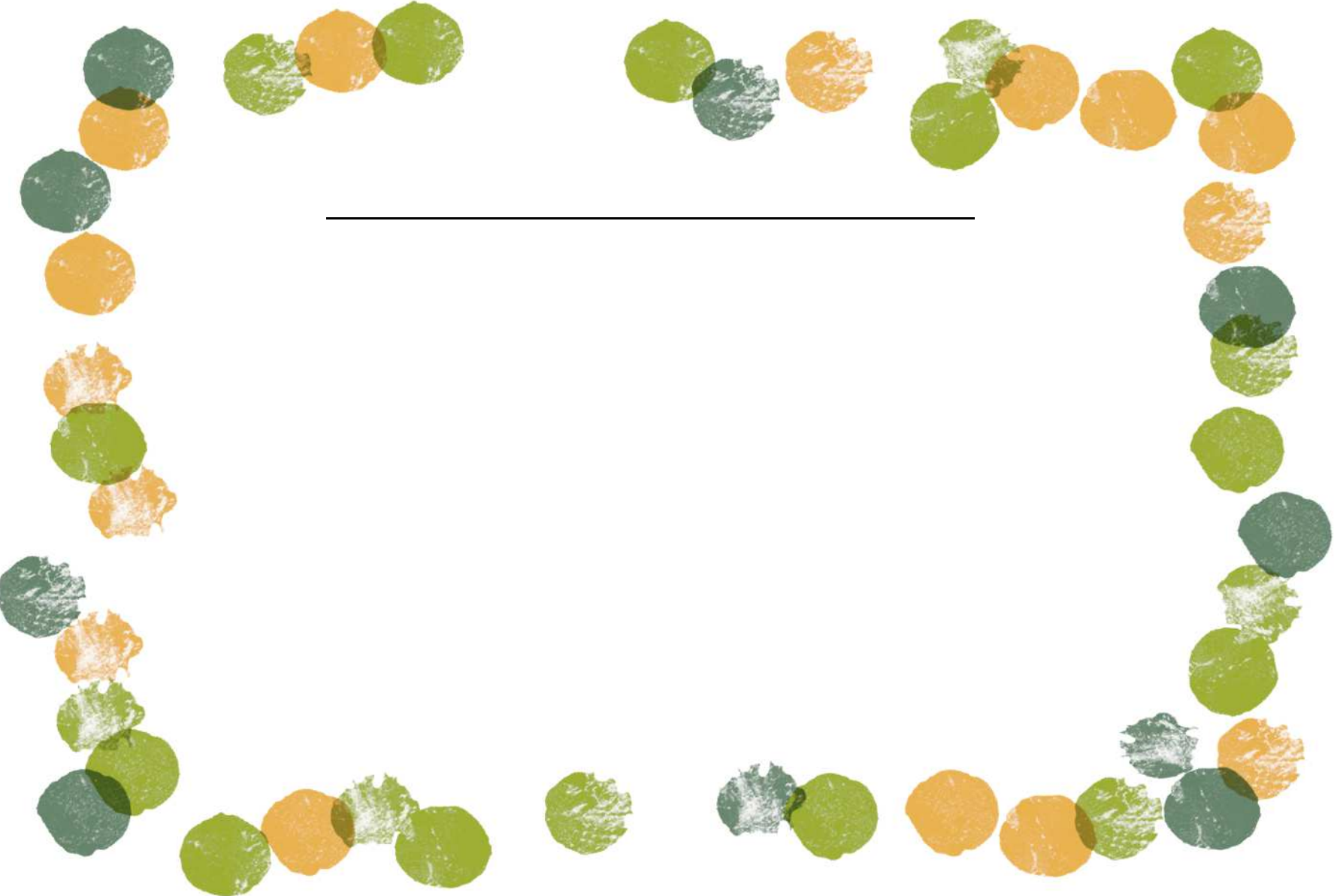
『恐竜ガールと情熱博士と』を読んで

あきさんが偶然見つけた化石が重大な発見につながり、  
すごいと思いました。私は恐竜や古生物が大好きで、  
福井県恐竜博物館には何回も行ったことがあります。

しかし、この本を読むまでは、こんなきっかけで博物館が作られたとは  
知りませんでした。今度行った時には、このお話を踏まえて、

たくさんの化石を発掘してくださった方々に  
感謝しながら見てみたいと思いました。

ななえ



『恐竜ガールと情熱博士と』を読んで

はかせは人にひはんされたりもしたけど、あきらめずに  
恐竜のはくつやクリーニングをしたり、海外にまで行って

何度も恐竜のレプリカを作らせてもらったりして  
恐竜博物館を作るのにこうけんしたのですごいと思う。

また、それを手伝ったすべての人のおかげで  
今の恐竜博物館があるので、かんしゃしたいです。

だいと



## 『熊本城復活大作戦』を読んで

熊本城は難攻不落と言われたただあって、じしんでも完全にほうかいしなかったのは、すごいと思います。

だけどこわれてしまったのは、ざんねんです。

作業は、城なので、むずかしいとぼくでも分かります。

今が2020なので公開できるかもしれないです。

けどコロナウイルスがまだおさまっていないので、

公開したとしても人が来ないかもしれません。

でもコロナウイルスがおさまったら、たくさんの方が

見に来てくれると思います。ぼくは、城は

行ったことがないので、見たこともありません。

なので、熊本城は見に行きたいです。

熊本城は、加藤清正が城主だったみたいなので、

どんな生活を送り、どんな戦法でたたかったのか知りたいです。

だけど熊本城もじしんでこわれてしまいました。

しょっちゅうじしんがあったら、直すのが大変で

やめたくなるけど、直した後と前では

ちがうところがあるかもしれません。こうへい



『熊本城復活大作戦』 を読んで

熊本城が崩れたと書いてあって、

あんなに大きなお城が崩れたのかと驚きました。

でも、天守閣を支えた一本の石垣がすごいと思いました。

また、バラバラに崩れてしまった石垣の破片一つ一つに番号を付けて

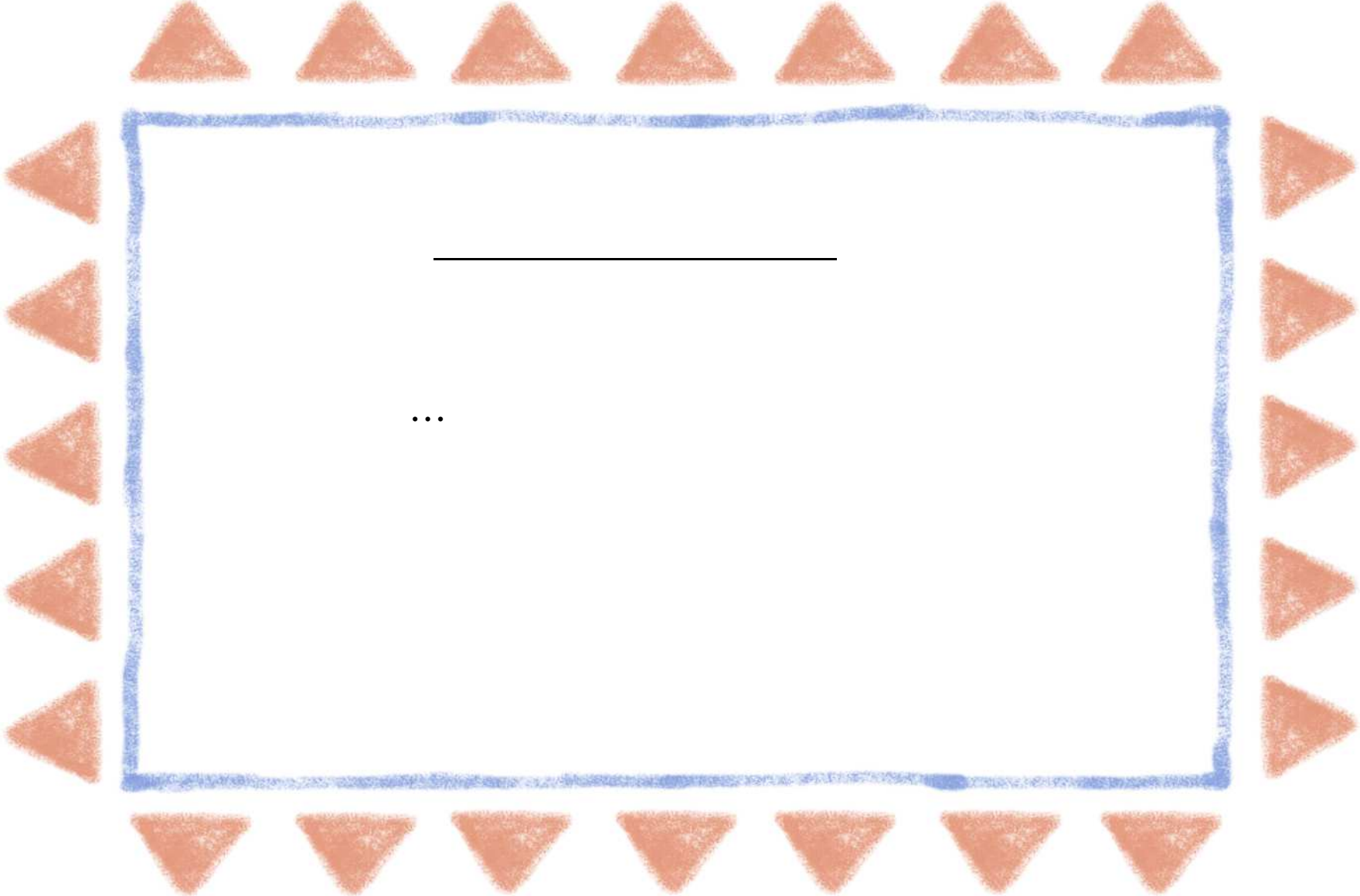
積み上げているということに感動しました。

少しでも早く元の姿に戻るといいなと思いました。

一度自分の目で直している時、完成した時を見たいと思いました。

ななえ





『チェンジ!』を読んで

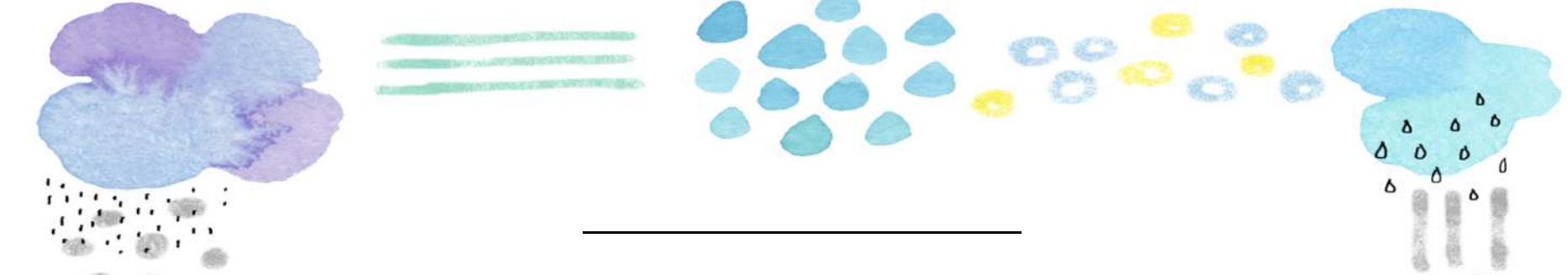
人は自分とちがうとくらべる。そして差別になる。  
障害者だから...じゃない。同じ人間だ。そう教えてくれた。

私は写真を見たとき、かがやいていると思った。

一人一人かがやき方はちがうけれど、

みんなちがって、みんないい!!!

ひまり



『チェンジ!』を読んで

パラアスリートは障害というハンデを持ちながら  
それを乗り越えて堂々としたパフォーマンスを  
見せているのがすごいと思った。

障害者と健常者の壁は前より低くなってきていると思うが、  
それは筆者のようにパラアスリートのすごさを  
伝えている人がいるからだと思う。

これからもパラアスリートの写真を頑張ってとってほしい。


だいと



## 『ぼくらしく、おどる』 を読んで

この本の筆者である大前さんは、ダンスカンパニーに入るために、オーディションを受け、二次しんさに合格し、最終しんさへのきっぷを手に入れました。しかし、最終しんさの前日、交通事故にまきこまれ、左足のひざ下を切ってしまい、そのオーディションには、何度も挑戦しましたが、受かることはできませんでした。しかし、大前さんは、1つの夢がやぶれても、プロダンサーになる道を見つけるため、たくさんの努力や工夫をし、今では義足の長さを調節したり、短い足でもアクロバティックなダンスをして、人々に希望を届けています。この本を読んで、大前さんから、どんどこに落ちても、努力すれば、夢はかなえられるということを学びました。

この本は、これから、どんなにつらいことがあっても、それは自分を変えるチャンスだと思って、何事もあきらめずに挑戦していこうと思える本です。 ゆうか

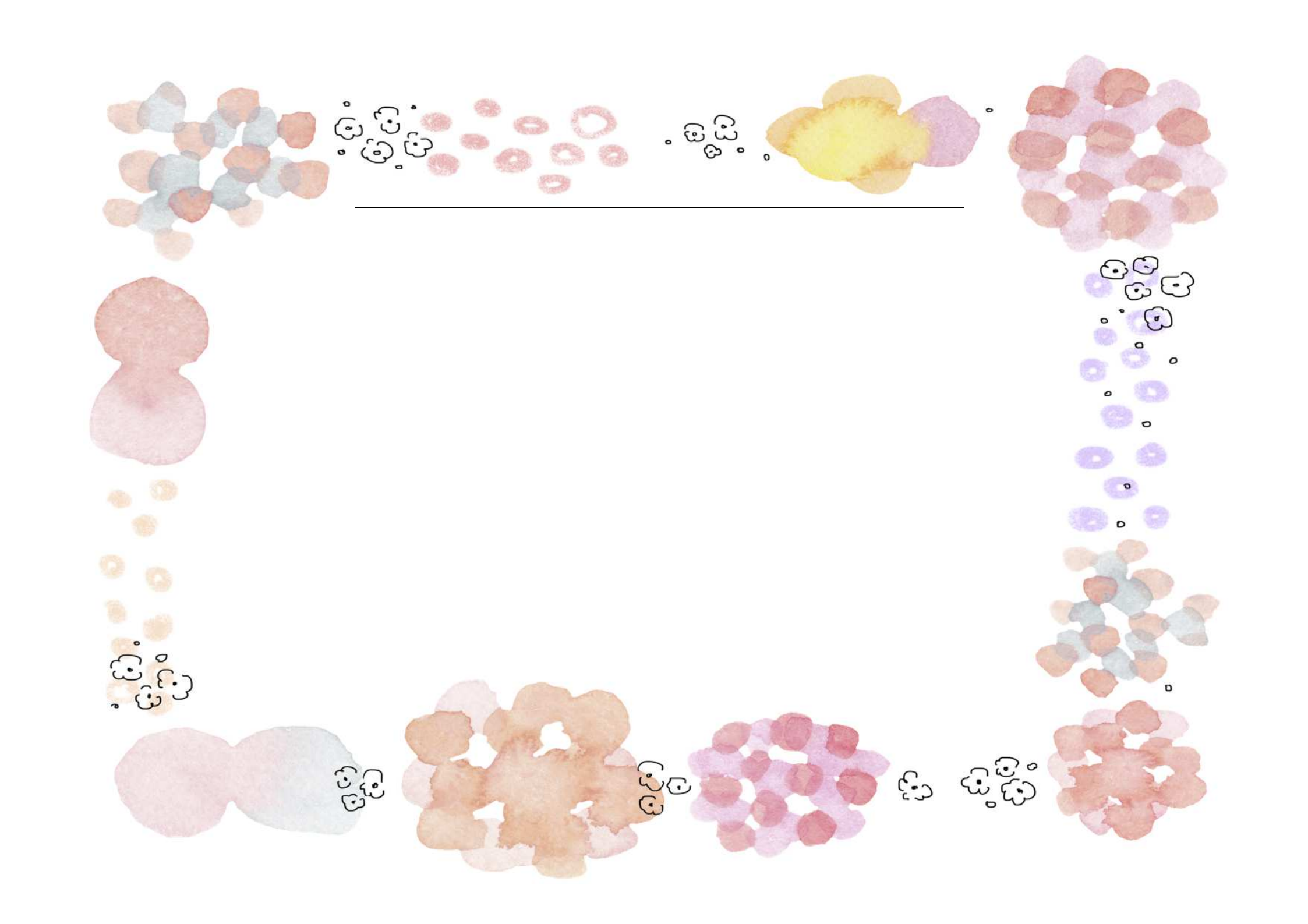


『希望、きこえる?』 を読んで

小学校に上がる前の小さな子どもたちのための  
ラジオ番組を作るためにふんとうしていて、  
だれかのために一生懸命になることは大変なことなので、  
すごいと思いました。

さまざまな人々の支えによって作っていった、  
いろんな国々の人がいる中で、  
みんなでいっち団結できたことも感心しました。

こと



『うちにカブトガニがやって来た!?!』を読んで

「ハツ」はまだ小さいのにきちんと約束を守って

「かぶこ」たちを海に返してあげたのがとても立派だと思いました。

ヒトもカブトガニも同じ命です。しかし私たちは自分の都合だけで環境を破壊し、

カブトガニは生きる場所を失い、今や絶滅危惧種にもなっています。

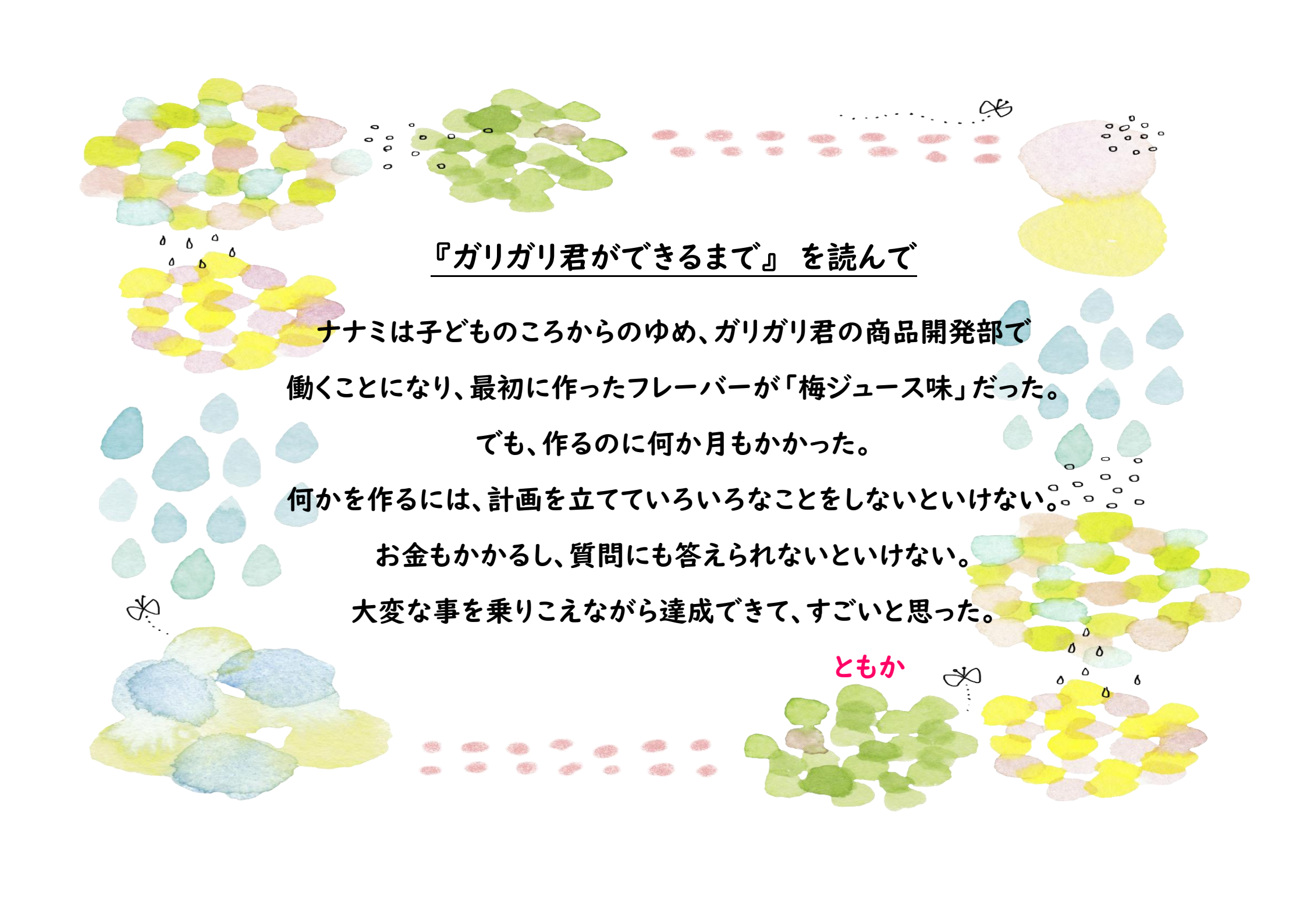
私はこの本を読んで、毎年参加している海岸清掃のことを思い出しました。

海岸には、大量のプラスチックゴミや外国語が書かれたものなどが  
たくさん落ちています。人間の勝手な行動にとっても悲しい気持ちになりますが、

自分ができる活動を少しでも続けていきたいと改めて思いました。

この地球のどこかで、かぶこたち、そしてその子どもたちが幸せに暮らしていますように。

ななえ



『ガリガリ君ができるまで』を読んで

ナナミは子どものころからのゆめ、ガリガリ君の商品開発部で働くことになり、最初に作ったフレーバーが「梅ジュース味」だった。

でも、作るのに何か月もかかった。

何かを作るには、計画を立てていろいろなことをしないとイケない。

お金もかかるし、質問にも答えられないとイケない。

大変な事を乗り越えながら達成できて、すごいと思った。

ともか



『ガリガリ君ができるまで』 を読んで

ガリガリ君と聞くと、いろいろな味が思いうかんでくる。

夏は毎日食べたくなる。

だけど、私たちが「おいしい」と思う分だけ、作る人は大変なのだ。

あれこれためし、おこられ…。

そのくやしさをかなしさの味も入っている！

あなたなら、くやしさを、かなしさ、うれしさ、

なにをブレンドして、何味がいい？

ひまり





『ガリガリ君ができるまで』 を読んで

特に新しいフレーバーづくりが面白かったです。

1種類のフレーバーを作るのに、何回も会議をしたり

何百種類もある香料を足していったりと、

とても長い時間をかけて

みんなで作られていることを知り、びっくりしました。

ちさ

『消えたレッサーパンダを追え!』 を読んで

私は、まず警視庁に「生き物係」があるのを知りませんでした。

「生き物係」は 2002 年に作られた部署です。希少動物が違法なのにもかかわらず、密輸されたり、ぬすまれたり、密売されたりする事件の解決のためにつくられたそうです。

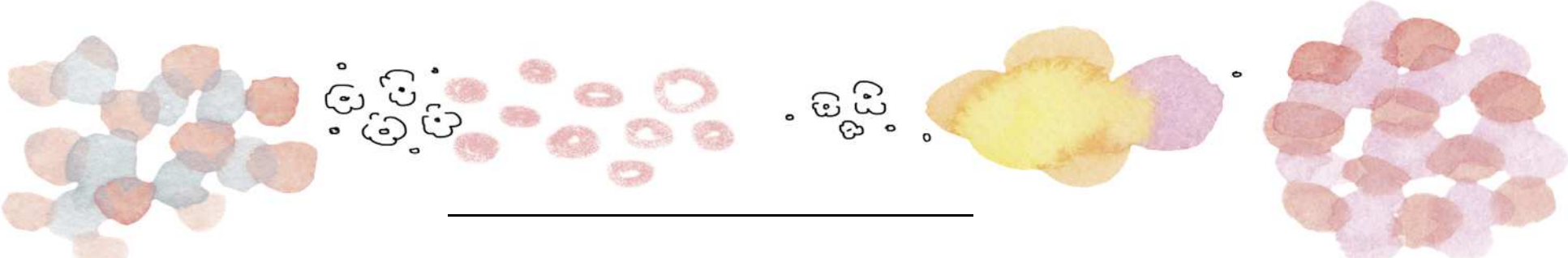
私は、そんな部署をつくらないといけないのが残念だなと思います。

動物たち一匹一匹が大切な命です。人間の勝手につかまえられたり、ぬすまれたり、売られたり...と命を左右されているのです。そんなことは無くさないといけないと

思います。このことを多くの人に知ってもらい、「してはいけない」

という考えの人が増えるとうれしいです。

まよ



『響け、希望の音』を読んで

この本は、災害の中で子どもたちで作ったオーケストラについて書かれたノンフィクションです。このオーケストラは、災害で大変な人に音楽をとどけるため、坂本りゅういち氏が立ちあげました。

このオーケストラには、災害で大きなひがいのあった県の子どもたちがたくさん集まって多くの人にきぼうをあたえました。

わたしは、この本を読んで、音楽は、言葉より気持ちを伝えられるときがあると知りました。こんなに音楽に熱中している人たちがいると思うと音楽って、おもしろくて、すごいものなのだと思います。

こころ

